

令和7年度第2回常総市公共交通活性化協議会 会議要旨

■開催

令和7年10月21日（火）14：30～16：10 常総市役所議会棟2階大会議室

■出席

委員：坂巻委員（女性団体じょうそう事業委員会）、篠崎委員（自治区長連絡協議会）、草房委員（常総地区交通安全母の会連合会）、尾上委員（常総市身体障がい者福祉協議会）、高橋委員（シルバークラブ連絡協議会）、中村委員（市議会）、石塚議員（市議会）、◎鈴木委員（筑波大学）、小菅委員（茨城運輸支局）、伊藤委員代理（県交通政策課）、前島委員（常総警察署）、室田委員（関東鉄道株鉄道部）、廣瀬委員（関東鉄道株自動車部）、古賀委員（茨城県バス協会）、相山委員（株アイヤマ観光）、松村委員（有三菱タクシー）、谷田部委員（関鉄労組）、浅野委員（市商工会）、細谷委員（市社会福祉協議会）、小淵委員（副市長）、小林委員（市長公室長）、川沼委員（総務部長）、秋葉委員（福祉部長）

※◎：議長

事務局：佐内都市建設部長、神達都市計画課長、坂巻補佐、佐賀主査兼係長、平井主幹（記録者）、田村主事
森係長（市社会福祉協議会）

規約第7条第4項に基づく出席者：坂東市企画課 篠塚課長補佐、鶴巻主幹

■内容

- 議案第1号 常総市地域公共交通計画の変更について
- 報告第1号 常総市地域公共交通基礎調査等業務について
- 報告第2号 お試し乗車券の利用実績について
- 報告第3号 坂東市コミュニティバスの乗り入れ案について

■協議内容（◆：議長、●：委員、▲：事務局、△：坂東市）

開会 14：30

【議案第1号】 常総市地域公共交通計画の変更について

- ◆： 立地適正化計画との整合を図ることから計画期間を1年延長するのに伴い、計画の目標や数値目標の見直しを図るというもの。ご意見等はあるか。

- ： 別紙1の6ページ『指標②公共交通利用者数の維持』で、コミュニティバスの目標値は90人/日となっており、右側と比較しても変わっていないが、ここが赤字になっているのは間違いなのか。
- ▲： 事務局側の誤りであり、目標値の設定に変更はない。パブリックコメントに諮る際には修正を行う。ただし、7ページ『算出方法と目標値設定の考え方』については変更箇所があるため赤字で示している。

- ： 指標①について、路線バス1系統の廃止というのはどのルートのことなのか。
- ▲： 関東鉄道の路線バスで、水海道駅から土浦駅まで運行していた系統が令和6年3月で廃止となっている。しかしながらその路線は完全になくなったわけではなく、現在はつくばみらい市のコミュニティバスが水海道駅・みどりの駅・みらい平駅を結ぶ運行をしているので、路線として維持されているが、路線バスの系統としては1つ減っているためこのような記載になっている。

- ： 指標③の満足度はどのように調べたのか。
- ▲： 平成29年度に行った市民アンケートでの結果が11.2%であり、計画策定時に、目標値は年度ごとに1%ずつ向上させていくという目標を掲げているため、現計画での目標値は令和6年度で18.2%だったものを、令和7年度となるのでさらに1%上げている。

- ◆： コミュニティバスに関する記載について、「新設」と「新規」とが混在しているので統一した方が良いと思う。
- ▲： 承知した。

- ： ふれあい号のA I配車システムというのは、既に導入され稼働しているのか。
- ▲： その通り。昨年12月からシステムの入替えを行い、現在はA Iオンデマンドシステムで稼働している。詳しくはこの後報告する。

- ： コミュニティバスはまだ利用したことがないが、市民はあまり満足していないと思う。祭りの日に街の中に乗り入れられないからとバスが出なかったことで、近隣の方から不満の声を聞いた。もう少し地元に着して、利用しやすくなってほしいと思う。
- ▲： 今年度の水海道祇園祭では、宝栄サンロードに交通規制がかかる時間帯の便は終点の水海道駅まで行けないため、運休という対応をとった。今後は運行事業者と相談しながら迂回ルートを設定するなどして、利用していただけるような形をとっていければと思っている。

- ： 今回の目標設定は延長の期間に応じて変更するのだと思うが、何か見直しをしたのか。今年度の結果を見込んで目標に設定しているのか。
- ▲： 系統数など実際の事実については現在の数で目標を設定した一方、ふれあい号などはこの計画に基づいて国からフィーダー系統補助金を受けていることもあり維持としているので、次の計画では目標設定の考え方を十分検討したい。

- ： 実績に合わせて目標値を上げている箇所については、頑張っって当初の目標を上回る実績を出しても、評価されないようになってしまわないかと思う。
 - ▲： 今後の参考にさせていただきます。
 - ◆： 他にご意見がなければ、いただいたご意見を反映した上でパブリックコメントにかけていくことになるが、よろしいでしょうか。
- ⇒ 承認

【報告第1号】 常総市地域公共交通基礎調査等業務について

- ： ふれあい号やJOYBUSの利用者は伸びているのか？
- ▲： ふれあい号の利用者は常に毎年増えているわけではなく、運行車両台数が減少するとその分利用者数は落ち込む。JOYBUSは運行開始して2年目となるが、曜日別運行としたことで各ルートは効率的に運行しており、昨年より利用者数が伸びているルートもある一方で、曜日別となり毎日走っていないことも原因の一つだとは思うが、全体で見ると利用者数は昨年よりも減っている状況。
- ： 今後歳をとってバスを使いたいときに無くなっていることが心配。利用者数が少なく、赤字だ、無駄だ、などとも言われているが、今年度だけではなく長い目で見て、無くなってしまうないようにしてほしい。
- ： 今回の調査データはとても貴重な情報で、今後、交通計画策定に向けて整理することが一番課題になる。こういった会議の場では年配の方が多く、高校生のデータは非常に貴重なので、若者向けの形に作り込むことが重要。今後どのように進めていくかの方針などがもしあれば教えていただきたい。
- ▲： 次期交通計画の中で、地域単位で交通空白などの位置づけができれば良いとは思うが、もう少し大きな視点で考えなければならぬと感じている。

現在のコミュニティバスは、既存の交通計画に基づき、居住地と市街地・拠点を結ぶ地域内移動を支える移動手段として位置付けており、その考えに基づくルート設定になっている。交通計画に基づく運行を行った結果が今の利用状況になっているのが現実である。次の計画では改めてコミュニティバスの位置づけを検討していくというのが方針の1つになると思う。

また、ふれあい号は引き続き市内全域のドア・ツー・ドア運行を担っていくことになるが、年々車両台数も減ってきている状況の中で、ふれあい号だけでは担いきれない部分も出てきている。近隣自治体の事例などを参考にしながら実証実験なども含めて検討し、バスとデマンド交通それぞれの役割分担を明確にして取りまとめをしていきたいと考えている。
- ： バスのあり方としては、路線バスやコミュニティバスから枝葉となるデマンドや一般タクシーの事業者とどう連携していくかが重要。さらにはバスやタクシーの運転手不足の課題もあるので、県内でも新たに公共ライドシェアなどを取り入れている自治体もある。そういう今後の新たな方策を交通計画の中に盛り込みながら若者に対するアプローチなどを入れ込んでいくところが着地点かと思

っており、今後ご議論していただきたい。

- ： ふれあい号の予約のお断りはこういった理由で発生しているのか。
- ▲： すでに入っている予約と後から入った予約希望の発着地が大きく異なり配車が難しい場合、後からの客はお断りとなってしまっている。これまではオペレーターが配車していたが、現在はA Iシステムが機械的に運行可能なリストを出すようになったので、それに基づいて運行することによってお断り件数は減ってきた。直近の8月のお断り件数は1ヶ月で27件、1日に1件強となっている。
- ： 乗り合いはしているのか？
- ▲： 事業の趣旨としては乗り合いありきの運行であり、A I配車システムを入れる前は乗合率が1.4人くらいだったのが、現在は1.9人くらいまで上昇している。可能な限り乗り合いで利用していただき、効率的な運行に努めている。

【報告第2号】 お試し乗車券の利用実績について

意見なし

【報告第3号】 坂東市コミュニティバスの乗り入れ案について

- △： 補足として、本市では令和元年度からデマンドタクシーの実証運行として、常総市内のきぬ医師会病院と水海道西部病院まで乗り入れていたが、利用実績が少ないため廃止する方向で考えている。今回のコミュニティバス再編案における「坂東・水海道ルート」がその代替の路線にもなるよう検討している。
- ： 学校の前にバス停を作るという話を聞いたが、どういうことなのか。
- △： 水海道一高と二高については、現在坂東市からスクールバスも出ているので、水海道方面への乗り入れの影響について確認するためヒアリングを行った経緯がある。ただし、コミュニティバスは学校の近くを通る道路（国道354号）沿いにバス停を設ける予定であり、学校前に設置する予定はない。また、朝の登校時間帯の運行はせず、スクールバスへの影響はない形での運行を予定している。
- ： 承知した。決定時期はまだ先になると思うが、学校側としては生徒や新入生への周知などもあるようなので、学校側にも細かく説明をお願いしたい。
- △： 承知した。学校側に再度詳しい内容を話して、スクールバスに配慮して進めようと思う。
- ： 今のような話がまさに両市において協議報告をしていただく重要性である。なぜ坂東市の案件をこの場で協議するのか補足説明させていただくと、地域外から路線が介入すると常総市の地元バス会社やタクシー会社の収益に影響する。また、運賃の差異が発生することで大きな問題が出るかを皆さんで協議していただき、特段問題はないとなれば運輸支局で認可する流れになる。問題となり得ることがあれば、坂東市さんに直接でも運輸支局の方にでも構わないので言っていただきたい。両市において了解をいただかないと交通網の発展には繋がらないので、皆様のご協力をお願いしたい。

- ： 観光周遊ルートでは、途中で乗り降りをするとその都度運賃が必要なのか。
- △： その通り。観光ルートは1乗車ごとに一律100円。なお、運賃は今後200円への改定を検討していく。

- ： コミュニティバスの実際の利用者は多いのか。
- △： 令和6年度は1日当たり52.9人。

- ◆： 運行曜日がルートによって「月～金（祝日は運行）」「土・日（祝日は運行しない）」となっており、祝日の扱いが少しわかりにくい。観光周遊ルートは、例えば土日月の3連休の場合、祝日の月曜日は運行しないのか。
- △： その通り。運行日は別紙7 1ページの運行日の表を見ていただければと思う。

- ◆： 車両のサイズはどのくらいか。
- △： 29人乗り小型バスで、常総市と同じ形。

閉会 16:10